

Catalogue of Palaearctic Coleoptera, 2. Hydrophiloidea-Histeroidea-Staphylinoidea. p. 42. Apollo Books, Stenstrup, Denmark.

Satō, M., 1970. Une nouvelle espèce de genre *Georyssus* Latreille au Japon (Coleoptera: Georyssidae). The Journal of Nagoya Women's College, (16): 199–200.

Satō, M., 1972. The georissid beetles of Japan. The Journal of Nagoya Women's College, (18): 207–213.

佐藤正孝, 1981. 日本産マルドロムシ科概説. 甲虫ニュース, (53): 1–4.

佐藤正孝, 1985. マルドロムシ科. 上野俊一ほか編, 原色日本甲虫図鑑, 2, 205–206, pl. 37. 保育社, 大阪.

多比良嘉晃, 2004. シフムネマルドロムシ, ヤマトマルドロムシ. まもりたい静岡県の野生生物—県版レッドデータブック—動物編. pp. 232–233. 静岡県自然環境調査委員会, 静岡.

(〒422-8034 静岡市駿河区高松 2-7-1-405  
多比良嘉晃)

(〒420-0047 静岡市葵区清閑町 13-12 株式会社環境アセスメントセンター 石川 均)

### 【短報】東京都におけるウメヤルリミズギワゴミムシの採集例

ウメヤルリミズギワゴミムシ *Bembidion (Peryphus) umeyai* は、北海道の定山溪を基準産地として Habu (1959) によって記載されたミズギワゴミムシである。森田 (2001) は、雄交尾器を再検討し、その分類上の位置について言及している。

本種は北海道をはじめ、青森、秋田、岩手、山形、神奈川、岐阜、愛媛などから記録されており (笠原, 1985; 穂積, 1994; 有井ら, 2004; 栗原ら, 2007; 吉武ら, 2011), 北海道や岩手、神奈川県では県版のレッドデータブックに掲載されている (北海道環境生活部, 2001; 岩手県環境生活部自然保護課, 2001; 田尾, 2006)。

筆者は東京都において本種を採集しているので



図1. ウメヤルリミズギワゴミムシが確認された岩盤 (奥多摩町)。

記録しておく。

2♂♂, 西多摩郡奥多摩町日原川倉沢出合, 14. V. 2011; 3♀♀, 奥多摩町留浦三沢 (峰谷川), 21. V. 2011; 1♂, 奥多摩町留浦下り (峰谷川), 21. V. 2011; 4♂♂, 奥多摩町大丹波 (大丹波川), 12. VI. 2011; 1♀, 奥多摩町南氷川 (多摩川), 4. VII. 2011, いずれも筆者保管。



図2. ウメヤルリミズギワゴミムシ (奥多摩産)。

河川上流部で、周辺がやや鬱閉した溪流沿いの岩盤のコケの間隙や、溪流中から露出した巨大な岩のくぼみに堆積したわずかな落葉の下から得られた。日中でもコケの間から岩上に移動し、活動しているのが観察された。採集個体のほかにも複数を目撃しており、本種の主要な生息環境のひとつは、図1に示したような溪流で、露頭した岩盤や岩であると考えられた。奥多摩地域では、比較的広い範囲で生息している可能性が高い。

なお、東京都からは、東京都建設局が公開しているホームページ上 (<http://www.kensetsu.metro.tokyo.jp/ikimono2/index.htm>) で、多摩川に生息する生物のリストが示されており、本種が多摩川の日原川合流地点において、7月に得られていることが明記されている。ただし、問い合わせたところ、記録の元となった標本は保管されておらず、その所在は不明とのことだった。

末筆ながら、本稿を草するにあたり、北海道産の本種標本を比較のために提供してくださった堀繁久氏 (北海道開拓記念館)、有用な情報をくださった吉富博之氏 (愛媛大学ミュージアム) のお二方に厚くお礼を申し上げる。

### 引用文献

- 有井一雄・守屋博文, 2004. 津久井町の昆虫 I. 津久井町史調査報告書, 113 pp.
- Habu, A., 1959. One new species of *Bembidion* from Hokkaido (Coleoptera, Carabidae). Kontyû, Tokyo, 27: 257–259.
- 北海道環境生活部, 2001. 北海道の希少野生生物 北海道レッドデータブック 2001. 309 pp.
- 穂積俊文, 1994. ウメヤルリミズギワゴミムシを岐阜県で採集. 甲虫ニュース, (106): 10.
- 岩手県環境生活部自然保護課, 2001. いわてレッドデータブック

- クー岩手県の希少な野生生物ー. 613 pp.  
 笠原須磨生, 1985. 秋田県のゴミムシ類. 秋田自然史研究会, 39 pp, 3 pls, 1 map.  
 栗原 隆・山迫淳介, 2007. 四国におけるウメヤルリミズギワゴミムシの記録. 甲虫ニュース, (160): 13.  
 森田誠司, 2001. ウメヤルリミズギワゴミムシについて. 東海昆虫誌, 穂積俊文博士記念論文集 293-296 pp.  
 田尾美野留, 2006. 高桑正敏・勝山輝男・木場英久(編), 神奈川県レッドデータブック生物調査報告書 2006, ゴミムシ類. 369-383 pp, 神奈川県立生命の星・地球博物館.  
 吉武 啓・栗原 隆・吉松慎一・中谷至伸・安田耕司, 2011. 農業環境技術研究所蔵の土生廻申コレクション(昆虫綱: コウチュウ目: オサムシ科) 標本目録. 農業環境技術研究所報告, (28): 1-327.

(〒 350-0825 川越市月吉町 32-17 亀澤 洋)

### 【短報】東京都多摩川水系におけるオナガミズスマシ類の記録

オナガミズスマシ類は流水性のミズスマシで、河川環境の悪化にともない、全国的にも生息域が狭められている。

その代表的な種がツマキレオナガミズスマシで、環境省(2007)のレッドリストに準絶滅危惧種として掲載されているほか、6県(栃木, 神奈川, 広島, 福岡, 熊本, 宮崎)のレッドデータブックに記載されている。オナガミズスマシとコオナガミズスマシの2種は、環境省のレッドリストには記載はないが、前者は5県(宮城, 山形, 埼玉, 岡山, 熊本)の、後者は1府11県(山形, 埼玉, 千葉, 神奈川, 富山, 愛知, 福井, 京都, 愛媛, 福岡, 熊本, 鹿児島)のレッドデータブックに掲載されている(NPO 法人 野生生物調査協会・NPO 法人 EnVision 環境保全事務所, 2007)。

東京都においては、ツマキレオナガミズスマシ, オナガミズスマシ, コオナガミズスマシおよび後述するテラニシオナガミズスマシの記録がある(Takizawa, 1931; 神谷, 1933)。記録地名として“Tamagawa”または「東京(郊外)玉川」があげ

られているが、現在の多摩川のどのあたりかは不明である。また、コオナガミズスマシに関しては、シャープの原記載(Sharp, 1884)によって“Tokio(東京都)”からすでに記録されている。ただし、いずれの記録も古く、東京都における現況を知る材料としては、守屋(1997)による多摩川水系の秋川上流部におけるオナガミズスマシの記録しかなかった。

筆者らは、東京都における水生昆虫類を調査する過程で、以下のようにオナガミズスマシ類の生息を確認しているので報告する。

#### 1. ツマキレオナガミズスマシ *Orectochilus agilis* Sharp, 1884 (図1)

1♂, あきる野市二宮睦橋付近, 29. V. 2010, 雛倉採集・保管; 5♂♂, 5♀♀, 同地, 2. X. 2010. 松原, 雛倉, 亀澤採集・保管。

#### 2. コオナガミズスマシ *Orectochilus punctipennis* Sharp, 1884 (図2)

1♀, あきる野市二宮睦橋付近, 8. IX. 2007, 松原採集・保管; 2♂♂, 同地, 29. V. 2010, 雛倉採集・保管; 1♂, 1♀, 同地, 2. X. 2010, 亀澤採集・保管。

#### 3. オナガミズスマシ *Orectochilus regimbarti* Sharp, 1884 (図3)

3♂♂, あきる野市二宮睦橋付近, 8. IX. 2007, 松原採集・保管; 3♂♂, 同地, 29. V. 2010, 雛倉採集・保管; 5♂♂, 4♀♀, あきる野市上養沢, 4. X. 2009, 松原採集・保管; 1♂, 1♀, 檜原村人里, 21. IX. 2008, 松原採集・保管。

現在の東京都の多摩川水系からは、以上のように、3種の生息が確認された。

このうち、オナガミズスマシは山地溪流に比較



図1-3. オナガミズスマシ類. 1, ツマキレオナガミズスマシ; 2, コオナガミズスマシ; 3, オナガミズスマシ.



図4. オナガミズスマシ類がみられた河川環境(奥が多摩川本川)。